
ど~1!!

歩得夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

どく！

【Zマーク】

N4795B

【作者名】

歩得夢

【あらすじ】

高校の教師に不満をもつ生徒達が溢れる中の原学園。高校側は危ない生徒を切り捨てる方針。そこへ新しく入ったのが春藤一。この男どく！が中の原に嵐を起こす！

NO・教師春藤一（前書き）

暇な時にでも読んで頂ければ嬉しいです。

ふいに小学校の卒業文集が読みたくなった。自[]P R『僕は大人になつたらす』といひとになつてゐると思います。』

「なんだよこれ。全く馬鹿だよな。自分は凄い人だと思い込んでんだもんな。こんな俺なのに。』

無責任なんだよ。

「無責任なんだよ！！」

心の中でのつぶやきはいつの間にか大声の声に変わつていた。階段から足音がしてノックが鳴つた。

「入るわよ。』

母親が入つてきた。

「ちょっと。先生から聞いたわよ。不良に喧嘩売つたんだって。なんでそんなことしたの？」

「・・・・」

「お前なんかに言つても仕方ないと思つてるでしょ？」

「思つてねえよ。』

「いいえ、思つてるわ。母さんあんたのことはなんでも

「わかつたから消えてくれよ。』

「嫌よ。あんたはなんでもそういうやつて溜め込むんだから。』

「はいはい、そうですね。』

「何か話す気になつたら、降りてきてね。あとこれ、夕食だから。』

結局、母親には何もはなさなかつた。

不意に自分がすぐ小さい気がした。

次の日、予想どおり先生に呼び出された。

なんでやつたんだ？

なんのために？

あんたらに俺の気持ちが分かつてたまるかよ。所詮はその場を治め

ようとしてるだけじゃないかよ！」

俺は先生に適当な嘘をついて、その場をあとにした。あいつらは俺らのことなんて、ちつとも考えちゃいない。すべて自分のため。そんな奴が先生なんかするから、生徒は居場所を無くすんだろうが！ その一面からしか見えない目が、上からしか聞こえない耳が、良いか悪いかとしか判断できない頭が、俺らを苦しめてんのに…さすこうともしない…。

中の原学園。偏差値低迷のため、いきなり規制を厳しくして、生徒をどんどん退学にさせていい高校。なので、みんな新しい理事長には反抗出来ないでいた。

「！」が中の原学園か。よし、行くか！

カキーン

「おう、野球か。青春だねえ。どれどれ？おーマネージャー可愛いじゃん！」

「おう！陸上部発見～！よし、勝負だあ！」

「衣笠、どうだ？足の調子は？」

「はい。良好です。これも、理事長をはじめとする先生方のお陰です。！？」

「よし、勝つた勝つた。おう！」が職員室かあ～！」

「佐仲くん。すまないが、コーンをびけてもらえないかな。コースの邪魔をしているもので。」

ブルブルブル

電話が鳴った。

「もしもし、中の原学

「誰なんですか!?あの駄は!?」

「はあ??一体何のことか。」

「あの男ですよ。なんか中の原学園の先生方ここにちは、とかつて
うちと中の原学園を間違えている意味不明の男ですよーーー」

「えつ??」

「とにかく、この男を持つて帰つて下さいー!」

「わかりました。」

「萩野先生彼方高校へ行つてうちへくるはずだつた男を連れて来て
下さい。」「だから、この学校は中の原高校ではなくて
「だつから、俺はこの学校に新しく入つてきた春藤はじ...。え
つ、この中の原高校じやないの?」

「「うちの教師?がすいませんでした。ほらあなたも。」
「すいませーんでいしたあ。」

「校長。連れてきました。」

「あなたが新しく中の原に来た春藤先生ですね。私はここに校長をやつておつます、三谷といいます。始めは慣れないこともあります。ようが、よろしくお願ひしますよ。」

「もちろんです。任せて下さい。」

「早速ですが、自己紹介の方を…」

「そうしてこの春藤はじめが先生になることになつたのだった。」

「取り合えず、春藤先生には3年2組の副担任になつてもうりますので、よろしく。」

「副担任？担任は誰なんですか？」

「それが今、…し、失踪しているんですよ。」

「し、失踪？」

「そんなに大きな声を出さないで下さいよ。この学校では皆川先生のことは禁句になつてるんですから。」

「す、すいません…。（ふーん。皆川先生つてこうののか。）」

「…」
といつわけで春藤は3年2組を任せられたことになつたのだった。

「はーい。みんな席に着いて。今日は新しい先生を紹介します。春藤先生、お願いします。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4795b/>

ど～1！！

2010年10月16日11時02分発行